

見積データの戦略的活用を支援する9つの機能強化 建築みつも郎9は“思考する”積算見積プロセス。

社内外のデータ連携から原価管理を意識した見積作成まで、
「使える」機能と「考える」機能を進化。お客様のあらゆるご要望にお応えします。

1 より多彩な データ連携を目指して

【エクセルへのデータ出力を強化】

単なるテキスト出力ではないエクセルへのデータ出力機能を実現。隠れ階層の有無や、見積金額や実行予算など、形式を選択しての出力が可能となりました。エクセルを使うことにより、より高度な集計やグラフを使った原価管理が行えます。



詳細な形式の選択が可能。

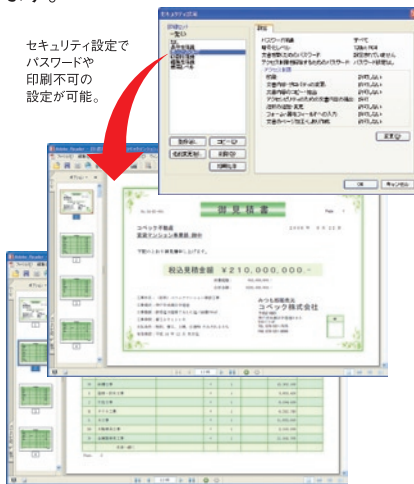


2 より迅速でセキュアな 見積共有を目指して

【PDFドライバーの強化】

株式会社ジャストシステムのPDF作成ソフトを標準搭載。従来のPDF作成機能より、操作性や再現性がアップ。さらに転送時に社内外への不用意な内容漏洩の危険性を低減する、パスワードの設定や、見積過程のデータが印刷物になってしまう危険性を排除する、印刷不可の指定など、より迅速な見積共有とセキュアな環境を両立しています。

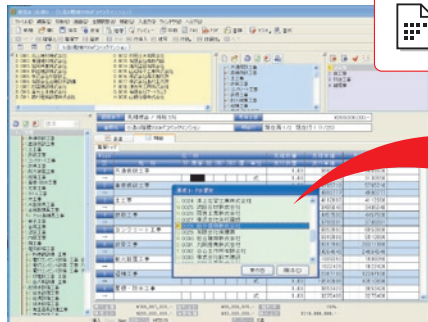
セキュリティ設定でパスワードや印刷不可の設定が可能。



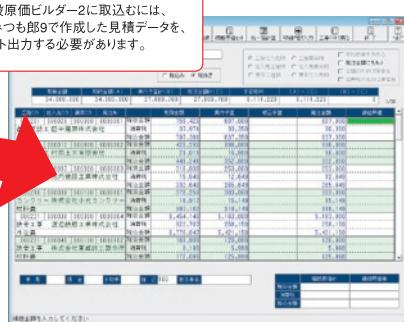
3 より確実な原価管理を目指して 【業者コード等の活用強化で原価管理ソフトとの連携】

せっかくの見積データは、原価管理のためのデータとして活用したいものです。発注先コードなどを確実に添付すると、とても効率的に原価管理ソフトや表計算ソフトなどで活用する事が出来ます。建築みつも郎は、もともと入力をできるだけ簡単にするため、コードなどの制約を極力外し、業者コードの未入力などをチェックできませんでした。今回の建築みつも郎9では、業者コードの未入力明細をチェックし検索が出来るようになりました。原価管理などへ移行したいデータを、建築みつも郎9上で、より実態に近いデータへの変更が可能となったのです。これにより、表計算ソフトはもちろん、別売の建設原価ビルダー2などへの実行予算データの移行がよりスムーズとなります。

※建設原価ビルダー2に取込むには、建築みつも郎9で作成した見積データを、テキスト出力する必要があります。



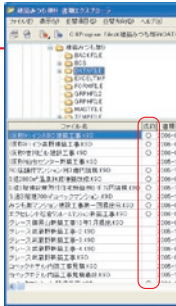
建築みつも郎9「業者コードの選択」



建設原価ビルダー2「実行予算登録画面」

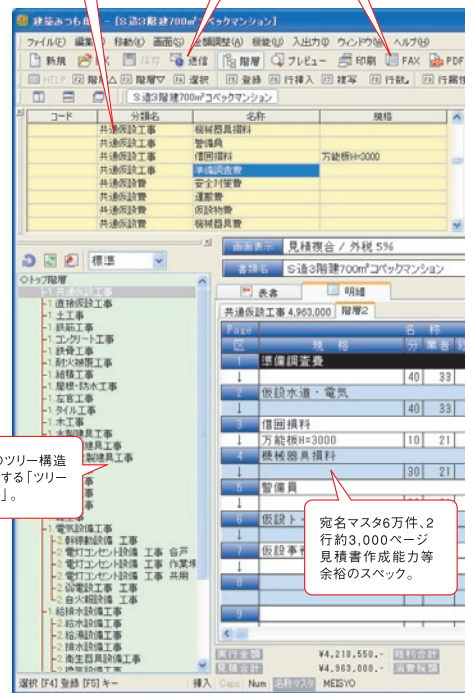
書類エクスペローラ

過去に作成された見積書の表書きに入力されたデータを検索し、一覧で表示できます。見積段階で多数できる作成途中のデータの一覧や、成約マークでの抽出、さらに一覧表からのデータの呼び出し等、多くのデータを整理しながら活用できます。また絞り込みで集めたデータの見積金額の合計を表示するといった便利な機能は、効率の良い情報の把握に威力を発揮します。



作業一覧が分かりやすく表示された「項目パネル」。また、項目パネルやクリップパネルのフローティング時には、入力カーソル自動追従機能搭載。

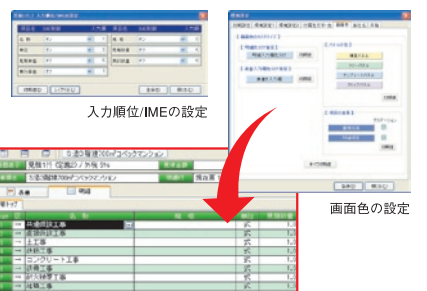
メール送信やFAX送信も建築みつも郎9が行えます。



書類のツリー構造を表示する「ツリーパネル」。

宛名マスタ6万件、2行約3,000ページ見積書作成能力等余裕のスペック。

7 行風性から各パネル色の設定、表書、明細の色分け等、操作画面の配色が自在に入ります。また、IMEの制御や、入力順序の設定まで、画面設計の編集機能が自由自在。



入力順位/IMEの設定

画面色の設定